



平成二十九年十二月二十一日

皇紀2677年
(西暦2017年)
第159号

発行：淀姫神社社務所
〒859-4501
松浦市志佐町浦免632
TEL・FAX 0956-72-0653

厳しい寒さが続いています

いよいよ年の瀬ですね

これを書いているのは十二月二十一日です。このところとても寒い日が続いていますね。皆さまにおかれましては、体調など崩されていませんか。

ここしばらくは暖かい冬だっただけに、厳しい寒さがやってくると体に堪えます。どうぞ体調管理には万全を期してお過ごしください。神社の方はというと、お正月の準備に追われています。この号が皆さまのお手元に届く頃には、もう年が明けているかも知れませんね。

もし年が明けていたらということを考えて、「明けましておめでとうございませう」の前払いをしておきます。

最近、年末年始の浮かれたような追い立てられるような、いかにも「年の瀬」という雰囲気は薄れつつあります。やや寂しい感じもしますが、そんな時代だからこそ、節目節目を大事にしたいものです。



お正月の言葉あれこれ

さて、今回は「お正月の言葉あれこれ」ということで、あまり知られていないような小ネタをご紹介します。

ここ松浦地方ではあまり馴染みがないものもありますが、日本のどこかでいまでも続いている習わしです。

◆七草爪（ななくさづめ）

正月七日の「七草の節句」に、邪気を祓うとして、七草をゆでた汁に指先を浸したりしたあとに爪を切る習わし。

「七日爪」「菜爪」「薺爪（なずなづめ）」などがあります。

ちなみに、1月7日は「爪切りの日」としてあちらこちらの記念日紹介のページに載っています。

◆若水（わかみず）

その年に初めて汲む水のこと。その水を飲むと、その一年の邪気が祓われるといわれる習わし。「福水」「初水」とも。

お正月の準備をする「年男」が行う儀式で、これを「初水迎え」といいます。

元日の早朝に、なるべく遠くに水を汲みに出かけ、途中で人に会っても言葉交わすことはしてはいけないという言い伝えがあります。

その水はまず年神さまにお供えし、お雑煮を作ったりお茶を点てたりすることに使われます。

ちなみに、お正月に神棚などの御幣を改め、屋敷をお祓いする宅神祭では「井戸神祭詞」という祝詞があります。井戸の神さまを祀る祝詞ですが、その中に

——年の初めの若水より
暮れゆく年の夜半までも——

という言葉があります。

上水道が整備された現代では、こういう風に若水を大事にする風習は廃れつつありますが、水があることへの感謝は忘れないようにしなければなりませんね。

◆年男（としおとこ）

お正月の行事を取り仕切る人で、昔は家長がこれを務めていました。暮れの大掃除からお正月の準備、お正月の行事などのあらゆることを取り仕切り、その家に福を呼び込むための大事な役割なのです。

現代では「年男」は主に「千支が巡ってきた男性」という意味合いが強くなり、お正月を取り仕切る方の意味ではあまり使われなくなっています。

淀姫神社インターネット公式サイト「淀姫神社WEB」 <http://yodohimejinja.com/>

各種最新情報・blog「淀姫日記」にて「お祭りレポート」などなど、内容盛りだくさんでお送りしています。ぜひともチェックしてくださいませ。